

## ビオトープなどで生物多様性の混乱を助長 ナガバオモダカ

前 公益財団法人日本植物調節剤研究協会  
技術顧問

森田 弘彦

*Sagittaria weatherbiana* Fernald (*S. graminea* Michx. var. *weatherbiana* Bogin, *S. graminea* Michx. subsp. *weatherbiana* R.R.Haynes & Hellquist) (英語名: Weatherby's arrowhead)  
オモダカ科 オモダカ属

非常に多種の水生植物、水草が輸入されてアクアリウムで利用されているが、逸出や戸外での栽培を通じて外部で増殖すると、生態系を乱す要因となる。ミズヒマワリ、ブラジルチドメグサなど、特定外来生物に指定された植物にもこうした履歴がある。野外で栽培可能な水草、ナガバオモダカ(図-1A)も自然植生や生物多様性に影響する雑草として注目されている。

### ■分布：

アメリカ合衆国北東部の原産で、世界の各地で観賞用の水草として導入・栽培されている。日本では、1975年頃から京都市の深泥池でのこの植物の生育が知られ、京都大学理学部の北村四郎先生により *Sagittaria graminea* Michx. と同定され、ナガバオモダカの和名が付された(北村 1980)。観賞用に輸入されたオモダカ科の水草としては *Echinodorus* 属の植物が多いものの、「サジタリア・テレス、ジャイアントサジタリア」などのオモダカ属の種もいくつかある(山崎 2000)。これらのうち、「ジャイアント サジタリア」の名で流通する植物の野外の水域での野生化が各地で認められたことから、大阪市立自然史博物館(当時)の志賀隆氏らが状況を調べ、これらをナガバオモダカとヒロハオモダカ(*S. platyphylla* J. G. Sm.)に整理した。公園の池などに栽培されるものの、関東地方以西の地域で野生化が知られている。

### ■形態と見分けるポイント：

湛水条件下で生育する多年生植物で、地中を横走るやや太い根茎から分株を生じ、高さ50cmほどの抽水葉を数枚出す。塊茎をつけない。抽水葉の葉身は、広披針形から長卵形で無毛、水田雑草のへらオモダカに類似するが、それよりは丸みを帯びる。春から初夏にかけて、抽水葉より高い花茎を出し、細い小花柄の先に白色の3弁花を着ける。花には「日本で栽培もしくは野生化している系統は、多数の雌しべからなる雌花しかつけない、結実しない。本来つけるはずの雄花を欠く雌性化の理由はよくわかっていない(角野 2014)。」という特徴がある。

ヒロハオモダカは、幅広い葉身、雌花と雄花を含む花序や秋期に形成される塊茎などの特徴で識別され、野生化の範囲はナガバオモダカより狭い(角野 2014)。

### ■雑草としての情報：

水生植物ではあるが、水田などの農耕地で雑草化した事例はないようで、「東京都井の頭公園や京都市深泥池に群生して知



図-1 開花期のナガバオモダカ(A:栽培・千葉県野田市, 2018年5月)と *Sagittaria graminea* の垂種としたラベル例(B: Kew 国立植物園, ロンドン, 2013年9月)



図-2 ビオトープに栽植されたナガバオモダカ(A)とナガバオモダカの画像に付されたへらオモダカの解説(B)(ともに2015年9月)

られるようになった。他の地域でも野生化の事例が増えている。意図的な植栽が疑われる場合もある(角野 2014)。」と指摘されるように、景観や生物多様性の面から問題とされる。1990年代の前半、茨城県のある自然観察施設で沢地に野鳥観察用の池を作り、その周縁部緑化用に数種の水草を造園業者に発注したところ、ナガバオモダカが「アギナシ」として植栽されたことがある。また、ナガバオモダカを、解説板の画像ごと「へらオモダカ」として展示するビオトープもある(図-2)。これらの事例は、「意図的な植栽」に加えて、園芸業者などの認識不足も大きな要因であることを示唆する。

### ■防除に関する情報：

環境省の「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」では、「総合的に対策が必要な外来種」の中で、「II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。」ことを理由として、ヒロハオモダカと共に62種の「重点対策外来種」に含まれた(環境省)。

ホームセンターなどでは「メダカ喜ぶ水草 ナガバオモダカ」の名札のついた鉢植えを見かけるようになった。種名の正確な認識と生態の特徴を踏まえた管理を徹底して、生態系への影響を防止してほしい。

### ■参考文献

- 角野康郎 2014. ネイチャーガイド 日本の水草, pp.82-83.
- 環境省日本の外来種対策, <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html> [アクセス確認: 2018年6月11日]
- 北村四郎 1980. 深泥池のナガバオモダカ, 植物分類, 地理 31:214.
- 山崎美津夫 2000. 水草カタログ, 長岡書店, 84-106.